

住宅用配管ユニットの モジュール呼び寸法

Modular Co-ordinating Sizes of Piping Unit for Dwellings

1. **適用範囲** この規格は、住宅に使用される配管⁽¹⁾ユニット⁽²⁾（以下、ユニットという。）のモジュール呼び寸法⁽³⁾について規定する。

注⁽¹⁾ 配管とは、空気用ダクト、給水管、排水管、通気管、ガス管、電線管等の総称をいう。

注⁽²⁾ 配管ユニットとは、建築部材に取り付けられるように前加工された配管群又は建築部材と配管を組み合わせたものをいう。

注⁽³⁾ この規格でモジュール呼び寸法とは、3.2の規定による対向する構成材基準面間の距離をいう。

関連規格： JIS A 0001 建築モジュール

JIS A 0002 建築モジュール用語

JIS A 0003 建築構成材の基本公差

JIS A 0004 建築のモジュール割りの原則

2. **種類** ユニットの種類は、表 1 のとおりとする。

表 1

区分	種類		摘要
建築の部位による区分	床		床部材と組み合わせるユニット
	壁		壁部材と組み合わせるユニット
	天井		天井部材と組み合わせるユニット
ユニットの構成による区分	配管単独形 (以下、単独形という。)		独自のフレーム等に組み込まれている配管群
	配管と建築部材の複合形	建築部材 取り付け形	建築部材に配管を取り付けているもの
		埋め込み形	配管を埋め込んでいる建築部材

備考 種類を 2 つ以上並べた場合の呼び方は、次の例によるものとする。

例： 床用単独形配管ユニット
壁取り付け形配管ユニット
床埋め込み形配管ユニット

3. 寸法

3.1 モジュール呼び寸法 ユニットのモジュール呼び寸法は、次のとおりとする。

3.1.1 単独形のモジュール呼び寸法 水平方向及び鉛直方向のモジュール呼び寸法は、表 2 のとおりとする。ただし、ユニットの仕上げ厚さ f 又はく体の厚さ t (仕上げを含む) を併記するものとする (付図 1 参照)。

表 2

		単位 mm
部位	方向	モジュール呼び寸法
床	水平方向	$n \times 150$
	鉛直方向	50 60 70 80 90 100 120 130 150 200 250 300 350 400 450 500 550 600 700 800 900
壁	水平方向	$n \times 150$
	鉛直方向	400 450 600 800 900 1000 1200 1350 1400 1600 1800 2400 $2400+t$ $4800+t$ $4800+2t$ $7200+2t$ $7200+3t$
天井	水平方向	$n \times 150$
	鉛直方向	$n \times 150$

備考 表中の n は正の整数とする。

3.1.2 複合形のモジュール呼び寸法 水平方向及び鉛直方向のモジュール呼び寸法は、表 2 のとおりとする。ただし、ユニットの一部であるく体の仕上げを含めた厚さ t' 又はく体の厚さ t を併記するものとする (付図 2 参照)

3.2 構成材基準面と最大外形面 ユニットの構成材基準面とユニットの最大外形面との間の関係及び距離は、次の各項によるものとする。

3.2.1 最大外形面は、構成材基準面の内側に設けるものとする。ただし、ユニットのすえ付け又はそう入及び他のユニット又は他の部材との接合に当たって、工世上支障のない部分は、構成材基準面を超えてもよい。

備考 ユニットのすえ付け又はそう入及び他のユニット又は他の部材との接合に当たって、工世上支障のない部分とは次のようなものをいい、いずれも突出部の寸法が表示されているものでなければならない。

- (a) ユニットのすえ付け又はそう入方向に設けてある突出部分 (付図 3 参照)。
- (b) そう入方向以外の方向については、ユニットのすえ付け又はそう入に際し、一時取り外して、すえ付けた後支障なく原形に復することができる部分。ただし、可とう性のある材質で押さえ込みなどが可能なためユニットのすえ付けに支障なく構成材基準面内に納めることのできる部分等も含む (付図 4 及び付図 5 参照)。
- (c) 他構成材と取り合いのない面 (廊下など) に突出する軽微な突出部 (付図 6 参照)。
- (d) その他、あらかじめ取り決めがなされている部分。

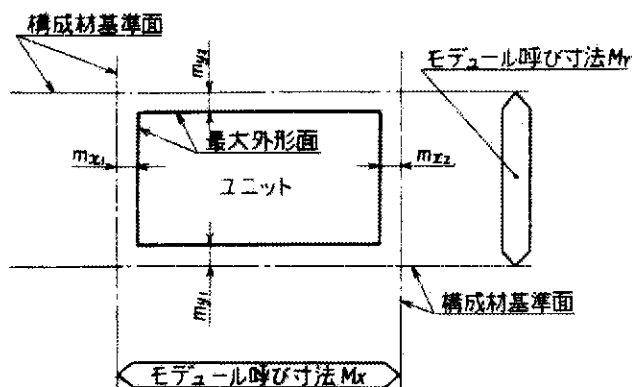
3.2.2 構成材基準面と最大外形面との間の距離 (m) は、表 3 によるものとする (図参照)。ただし、モジュール呼び寸法が最大外形面の外周に設けてある保守、保安などに必要な空間を含んで定められている場合には、この限りでない。

表 3 (付図 7 参照)

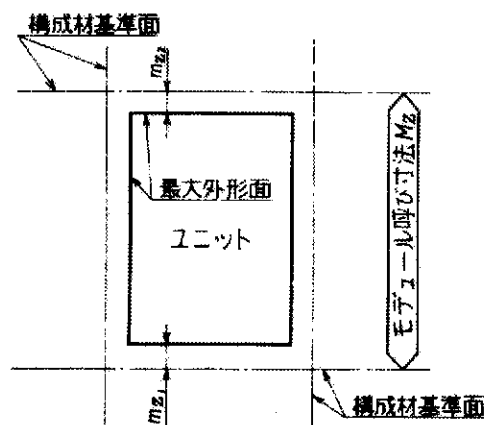
単位 mm		
区分		構成材基準面と最大外形面との間の距離の推奨値 (mm)
水平方向	仕上げをもつ側の距離	0
	仕上げをもつ側以外の距離	15 又は 0
鉛直方向	仕上げをもつ側の距離	0
	仕上げをもつ側以外の距離	15 又は 0

図

(1) 水平方向

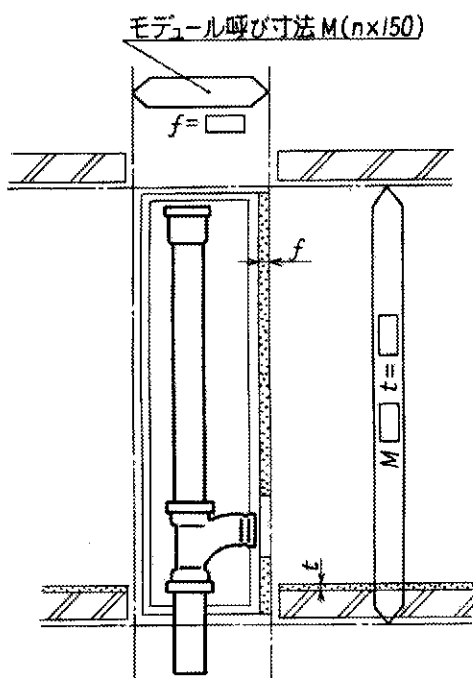


(2) 鉛直方向



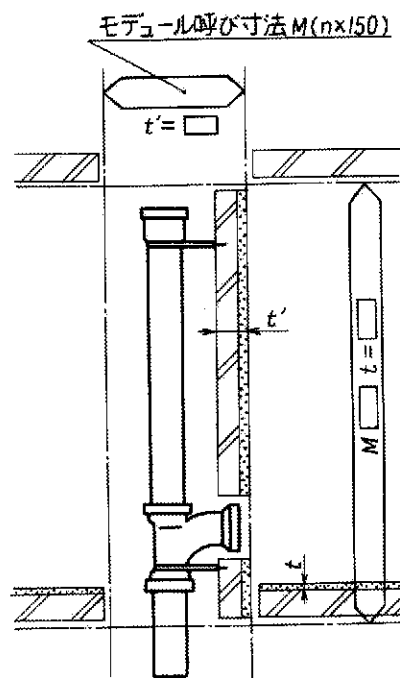
付図 1

f : ユニットの仕上げ厚さ
 t : く体の仕上り厚さ

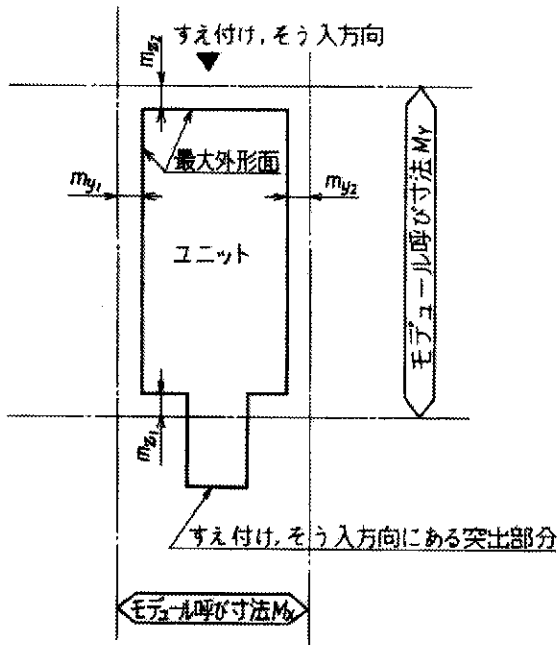


付図 2

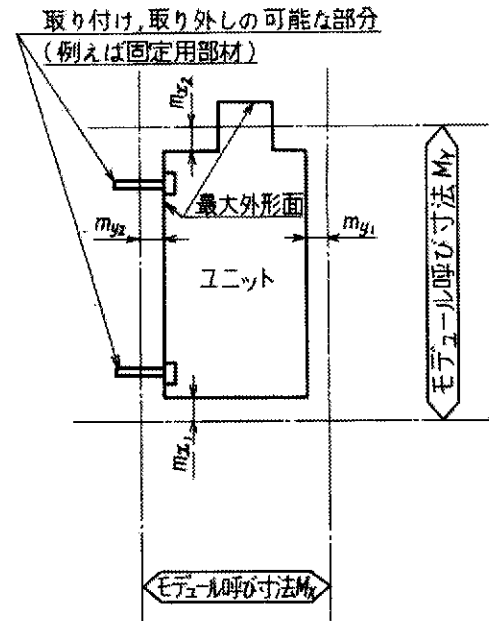
t' : く体の仕上り厚さ
(ただしユニットの一部とする)



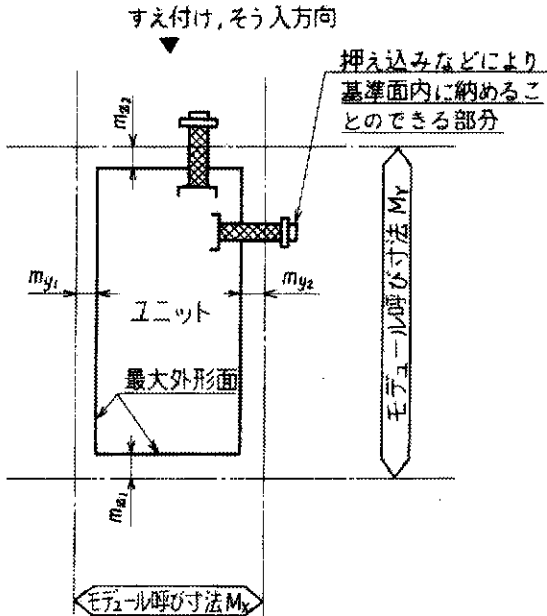
付図 3 すえ付け・そう入方向にある突出部分 (例)



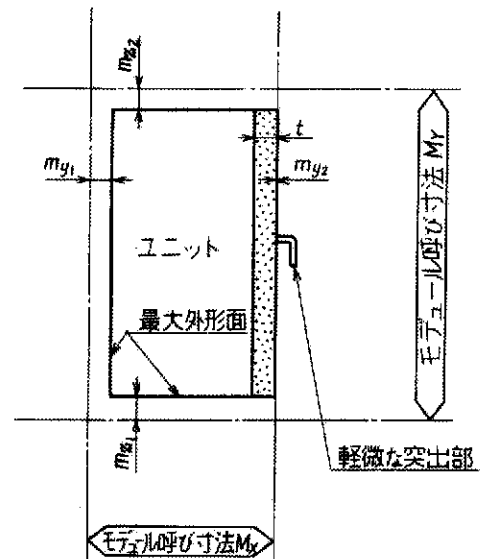
付図 4 取り付け・取り外しの可能な部分 (例えば固定用部材)



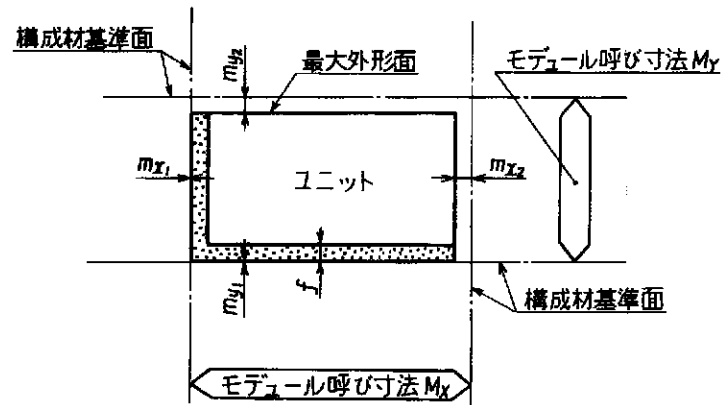
付図 5 押さえ込みなどにより基準面内に納めることのできる部分 (例)



付図 6 軽微な突出部 (例)



付図 7 (例)



建築部会 建築設備モジュール呼び寸法専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	藤 井 正 一	芝浦工業大学
	斉 藤 平 蔵	東京大学工学部
	内 田 祥 哉	東京大学工学部
	池 辺 陽	東京大学生産技術研究所
	小 原 二 郎	千葉大学工学部
	渡 辺 覚 一	日本住宅公団総合試験場
	兵 頭 美代子	主婦連合会
	山 下 茂 男	松下電工株式会社
	菅 原 武 司	日本鋼管株式会社
	梅 原 秀一郎	東芝住宅産業株式会社
	菊 地 禮	松下電器産業株式会社
	清 沢 洋	東陶機器株式会社
	木 俣 信 行	鹿島建設株式会社
	高 島 秀 文	日立化成工業株式会社
	豊 中 俊 之	環境システム株式会社
	小 池 知 寿	財団法人日本燃焼器具検査協会
	江 夏 弘	社団法人日本住宅設備システム協会
	林 文 明	シャープ設備機器株式会社
	松 谷 蒼一郎	建設省住宅局
	緒 方 謙二郎	通商産業省生活産業局
	帆 足 万 里	工業技術院標準部
(事務局)	田 村 尹 行	工業技術院標準部材料規格課
	米 倉 久 明	工業技術院標準部材料規格課
	下 原 昭 三	工業技術院標準部材料規格課
	田 仲 信 夫	工業技術院標準部材料規格課